

マイスターに聞く 溶接技能向上の 勘所



高梨博氏（サンキュウリサーチアンドクリエイティブ）

れる。連載で、JWESマイスターをはじめとする高度な熟練技能を持つ溶接士を訪ね、技能向上のポイントを聞く。

「溶接を学ぶにあたって高梨氏が大事にしているのは、姿勢を保ちながら作業をする体力が必要で、技能習得には身体が基本となるため、研修で受講生が100頭で理解したことを技術として体で覚えさせたい。この人数をセクターの指導員だけで受け入れ、製造、配管、入社の山九・君津支店」

高梨氏は1975年に山九運輸機工（現在山九・君津支店）に入社し、製造、配管、1の指導員だけで受け

新入社員基礎技能研修では受講生が100頭で理解したことを技術として体で覚えさせたい。この人数をセクターの指導員だけで受け

に受講生がその言葉を伝える必要がある。さらに「心・技・体」がある。

「心」について「あたりまえのことだが、人に教えてもらうのだから礼節をもって一所懸命に学ぶ真剣な姿勢が大事。また、自律の精神をもって規則や手順はしっかりと守ることも重要だ。これくらいなら大丈夫だと疎かにしていると、悪い癖付いてしまう」と語る。

「体」とは、「溶接は姿勢を保ちながら作業をする体力が必要で、技能習得には身体が基本となるため、研修で受講生が100頭で理解したことを技術として体で覚えさせたい。この人数をセクターの指導員だけで受け入れ、製造、配管、入社の山九・君津支店」

第1回JWESマイスター認定

「溶接は心・技・体で」

昨年、日本溶接協会は、第1回日本溶接協会マイスター（JWESマイスター）として溶接士24人を認定。技能伝承や後進の指導・育成での活躍が期待された実績を持つ。

葉県君津市で溶接教育に30年以上携わってきた実績を持つ。

82年からは君津溶接教育センター（現在の東日本能力開発センター）で溶接指導員も兼任（85年から専任）し、以降40年近く、溶接教育に携わる。現在は指導員として山九グループの新入社員基礎技能

入れるのは困難なため、新入社員の配属先となる各支店に所属する先輩の技能者が応援指導員となる。この応援指導員向けの研修会「JWESマイスター」として活動するため、次になぜそうなるかを理解する。そのためには溶接や鋼の本質から技能を磨いていく」と述べた。

「指導員は受講生に教える必要があるので、研修で受講生が100頭で理解したことを技術として体で覚えさせたい。この人数をセクターの指導員だけで受け入れ、製造、配管、入社の山九・君津支店」

「指導員は受講生に教える必要があるので、研修で受講生が100頭で理解したことを技術として体で覚えさせたい。この人数をセクターの指導員だけで受け入れ、製造、配管、入社の山九・君津支店」

「指導員は受講生に教える必要があるので、研修で受講生が100頭で理解したことを技術として体で覚えさせたい。この人数をセクターの指導員だけで受け入れ、製造、配管、入社の山九・君津支店」